



命を救うこと

～「その時」にできることとは…～

校長 中山 徹

先日、3年生が「救命講習」を受けました。

練馬消防署、練馬消防団などの方々を講師に、救急救命に関する基礎知識の習得、心臓マッサージ・AED操作等の技術習得を目的に、きめ細かな指導をしていただきました。緊急の場面では「周囲の速やかで適切な対応」が特に重要であることを改めて実感しました。



私の知人に、心筋梗塞で倒れ心臓が一時停止してしまっただけの人がいます。幸いにも、そのとき周囲に救急救命に関する知識をもった人がいたことと、すぐそばにAEDが設置されていたことで救急措置が適切に行われ命を取り留め、その後入院・手術を経て、今は元気になって仕事に復帰しています。

「その場に居合わせた時、戸惑いがあっても、心臓が止まっている場合はためらわずに心臓マッサージを行い、そしてAEDを使うこと。」

以前、私もこのように教わりました。

心臓マッサージは人工的な血流を作り出し、脳に血液を送ることになります。その場に居合わせた人間ができる最も基本的な動作であるとともに、その人の生死を左右する一番重要な動作でもあります。

AEDは、操作方法について音声流れますので、その通りに進めれば初めての者でも扱えるようになっていきます。その場で心臓に電気ショックを与え、蘇生を試みることができます。

私は教わった通りに実行できるか自信はありませんが、こうした講習会を繰り返し受け、知識・技術とともに「心の準備」を蓄積しておくことが肝要だと感じました。

昨年度の学校だよりでも述べましたのでご存知の方も多いと思いますが、この私も昨年心臓を患い入院し手術を受けました。私の場合は、訪れた病院で直ぐに適切な処置をしていただきましたので、心臓マッサージ・AEDのお世話にはならなかったのですが、そのときに医師からは「心筋梗塞になってもおかしくない状態だったよ。そうなる前に病院に来ることができて、本当によかったね。」と言われました。

やはり、「まずは最初の対応が肝心！」です。

これからも、様々な機会を利用して生徒たちの意識を高め、救命に対する関心が膨らんでいくよう、工夫していきたいと思っています。